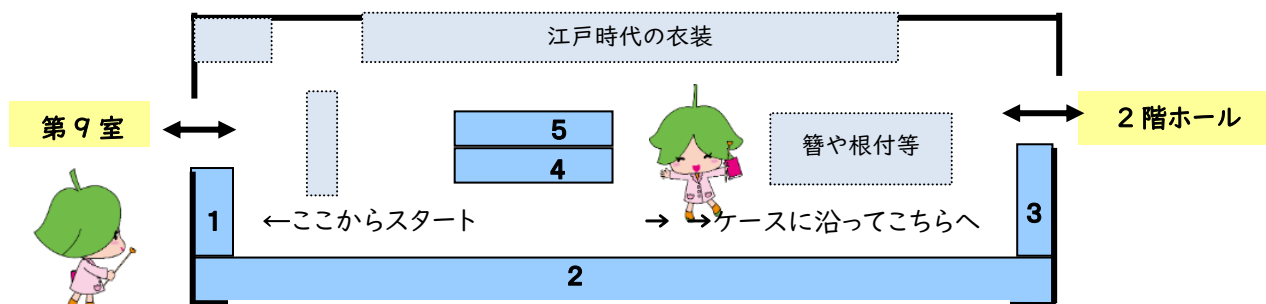


ボランティアによる“2022年浮世絵の旅”

東京国立博物館(トーハク)本館 10室によろこそ。この部屋では、江戸時代の浮世絵と衣装が展示されています。今回は、浮世絵の歴史をおさらいしながら、2022年度に展示される有名な浮世絵を中心にご紹介します。トーハクには、1万点を超える浮世絵作品があります。その中から季節やテーマに合わせて毎月展示替えが行われます。お好きな作品が展示される時期に是非ご来館ください。(その月の展示作品はトーハクウェブサイトで確認できます。)



10室の歩き方 もちろん目についた作品からご自由に! ですが、まずは9室から10室へ進みましょう。下の図は10室の浮世絵展示をケース番号と共に示したものです。浮世絵は、通常ケース1からケース5へと年代に沿った展示が行われており、江戸の人々、風俗、名所等を知ることができます。では早速浮世絵の旅に出発しましょう!



(イラストはトーハクの公式キャラクター「ユリノキちゃん」です。)

浮世絵の旅のガイド (浮世絵の歴史)

肉筆画



「見返り美人図」 菱川師宣筆
江戸時代・17世紀
(2022/4/12-5/8
本館2室で展示)

浮世絵の「浮世」とは、描かれた当時の「世の中」のことです。浮世絵は主に江戸時代の風俗や出来事を同時代の絵師が絵にしたもので、そこには庶民の姿が生き生きと描かれています。江戸時代前期(17世紀)には肉筆画が主でしたが、後に大量生産が可能な木版画が生み出され、18世紀中頃になると彫りと摺りに工夫を凝らした多色摺りの版画「錦絵」が誕生しました。なお、錦絵が登場した後も多くの浮世絵師が肉筆画も描いています。

最初は肉筆画 皆さまよくご存知の左の作品は、菱川師宣(?~1694)の「見返り美人図」です。緋色の衣裳をまとった美人がふと見返る一瞬を描いています。手書きですので原則として1枚だけしかありません。「見返り美人図」もトーハクだけにしかありません。絵師が一枚一枚筆で描くため肉筆画は高価で庶民が気軽に買えるものではありませんでした。(なお、肉筆画は展示ケース1やケース3で展示されることが多いです。)

そして版画へ そこで、大量生産できて手頃な価格の絵が求められるようになりました。絵師たちは木版を彫る「彫師」や版画を摺る「摺師」と組んで、誰でも買うことができる安価な版画を制作し、大量に摺るようになりました。その結果、お蕎麦一杯分くらいのお金で買えて、楽しめる庶民の芸術、「浮世絵版画」が誕生したのです。

最初の版画墨摺絵 浮世絵版画には墨摺絵、丹絵、錦絵等の種類があります。最初の版画は絵入りの本(版本)の挿絵から独立したもので、墨一色の「墨摺絵」と呼ばれました。右の作品は懐月堂度繁(生没年不詳)の「短冊もつ遊女」です。右手で短冊を持って裸足で立つ堂々たる遊女が、細い線と太い線を組み合わせさせて生き生きと画面いっぱいに摺られています。

墨摺絵



「短冊もつ遊女」 懐月堂度繁筆
江戸時代・18世紀
(展示期間未定)

彩色版画の登場 墨摺絵が普及すると、次に職人が墨摺絵に1枚1枚手で色を加えた「彩色版画」が登場しました。右の作品は鳥居清倍（生没年不詳）の「市川団十郎の竹抜き五郎」です。この作品は墨摺絵に朱色の絵の具を筆で書き加えたもので、「丹絵」と呼ばれるものです。彩色版画には他にも「漆絵」「紅絵」等いくつかの種類があります。しかし、手間をかけると費用が掛かり、単純なものは飽き足らず、安価で美しい多色摺りの版画の登場が待望されました。

錦絵の誕生 多くの色を重ねる「多色摺り」で大量の版画を摺るには、擦り重ねる色がずれないようにするための工夫が必要です。3色程度の色を重ねた「紅摺絵」を経て、明和期（1764～72）になってようやく、美しく色を重ねた多色摺りの版画が誕生します。これは京都の豪華な絹織物「錦」のように美しいことから「錦絵」と呼ばれるようになりました。その後、浮世絵を引き立てるさまざまな技法が工夫され、より一層見るものの目を楽ませることができるようになりました。

錦絵の名品 2022年度に10室で展示される錦絵の美人画・風景画・役者絵・武者絵から、ボランティアおすすめの作品を1点ずつご紹介します。是非ご来館いただき、本物の名品をお楽しみください。

丹絵



〔重要文化財〕
「市川団十郎の竹抜き五郎」 鳥居清倍筆
江戸時代・元禄10年(1697)
(展示期間未定)

美人画



〔重要文化財〕
「娘日時計・巳ノ刻」 喜多川歌麿筆
江戸時代・18世紀
(2022/8/2-8/28 展示予定)

役者絵



〔重要文化財〕
「市川鯉蔵の竹村定之進」 東洲斎写楽筆
江戸時代・寛政6年(1794)
(2022/11/22-12/25 展示予定)

風景画



「富嶽三十六景・凱風快晴」 葛飾北斎筆
江戸時代・19世紀
(2022/8/2-8/28 展示予定)

武者絵



「本朝水滸伝剛勇八百人一個・大巳貴命」 歌川国芳筆
江戸時代・19世紀
(2022/11/22-12/25 展示予定)

*展示予定は変更になることがあります。